受付・お問い合わせ　経営支援部 取引振興課 018-860-5623

とうほく自動車産業集積連携会議 講演会
あきた自動車産業振興協議会 講演会

開催内容　県の重点分野である自動車産業の振興に向けた有識者講演会を開催

東北・秋田で更なる自動車産業の発展を目指して

7月16日、ホテルメトロポリタン秋田を会場に、新潟県を含めた東北6県で構成する「とうほく自動車産業集積連携会議」および「あきた自動車産業振興協議会」の講演会を開催した。いずれも、産業界や経済界、大学、支援機関、行政等が一体となって、県の重点分野である自動車産業の振興を目的とした交流や連携の場を創出する活動を行っている。それぞれの講演会では自動車関連産業への参入や取引拡大を目指す企業から約170名が参加し、熱心に聞き入った。

とうほく自動車産業集積連携会議 講演会

自動車業界の今後に向けたトヨタの品質経営

講　師
トヨタ自動車株式会社
元取締役副社長　**佐々木 眞一 氏**

トヨタ自動車株式会社の元取締役副社長である佐々木眞一氏は、「必要なことはモノづくりからコトづくり。お客さまに常に新しい性能、新しい経験を与えられるかが重要」と前置きし、そのためには従業員一人ひとりが自らの仕事を常に高いレベルで実践していくこと、それを維持するための環境整備が必要と説明。現在、トヨタの全社員が実施している「自工程完結」の考え方に基づいてこれからの時代の品質経営について述べた。

「トヨタで実践しているのが、良いモノだけを生産し、検査に頼らないモノづくりです。工場でもオフィスワークでも日々の業務を徹底的に“標準化”し、自らの仕事を自身で判断する。そして、自分の後の工程がお客さまだと意識することで、良いモノだけをバトンのように次へ引き渡す。お客さまには喜んで頂くことができ、携わる人間は完璧な仕事をすることでモチベーションが上がります」。

最後に、今後ますますAIやIoTといった先端技術が活用されていく中で、世のため人のためにどう役立てるのかを自ら考え、自工程完結できる「人財」を育てていくことが企業にとっては大切であると締めくくった。

あきた自動車産業振興協議会 講演会

外国人人材の活用について

講　師
大橋鉄工株式会社
代表取締役社長　**大橋 雅史 氏**

海外や関連会社を含めた従業員419名のうち、約3割にあたる135名の外国人を採用している大橋鉄工株式会社。取締役社長の大橋雅史氏は、「100年に一度の大変革を生き延びるために、技術開発はもちろん、それを支える有望人材の確保と育成が急務」とし、1991年から始めている外国人技能実習生の受け入れにおけるメリットについて、具体的な例を挙げながら分かりやすく説明した。

「弊社で採用している外国人の方々の平均年齢は23.5歳。彼らは一様に高いモチベーションをもっていて、受け入れる企業側にとって大きな力になっています。また、外国人でも働きやすいように作業標準の見直し活動を行ったり、ポケトーク（通訳機）の利用提案があったりと、現場レベルでの良い変化もみられます」。

また、メリットだけに目を向けるのではなく、異なる文化や日本語能力不足によるトラブルを雇用側が正しく理解し、サポートする体制を取る必要もあると述べた。

講演後、参加者からは次々と質問の声が上がり、外国人人材活用に関する県内企業の関心の高さが伺えた。